横田基地新司令官 就任

Yokota welcomes new wing commander

June 24, 2016

Original text by Senior Airman David Owsianka
374th Airlift Wing Public Affairs

横田基地で6月24日、基地司令官交代式が行われ、ダグラス・デラマター大佐に代わり、新司令官にケネス・E・モス大佐が就任した。

ドーラン中将（左）から軍旗を受け取る新司令官モス大佐（右）

司令官交代式は、組織の指揮権・軍旗を公式に継承する軍の伝統行事となっている。

新たに基地司令官に就任したモス大佐は、挨拶の中で「太平洋空軍唯一の航空団の司令官に任命されたことを生涯の名誉に思う。有能なメンバーが揃ったチームに加われることを嬉しく思う。また更に日本との同盟を深めて行きたい」と述べた。

モス大佐は前職で、ノースカロライナ州フォートブラッグにあるポープ陸軍基地で第43空輸群司令官を務めた。C-21A、C-130ハーキュリーズ、KC-10Aエクステンダーを含む航空機の飛行歴を4，000時間以上有する。

日米の来賓、米軍人、報道陣等を前に、今後の期待を語る
新司令官モス大佐

モス大佐は「我々は恵まれている。美しい国（日本）に住み、家族とも言える友人と共に働き、その働きが日々世界をより良いものに導いている。皆の功績は、世界的な高い評価を得ている。共に、これからもその高い水準を維持していく。皆と働けることを楽しみにしている」と、横田基地のメンバーたちと国際平和、安全、安定に貢献していくことへの期待を語った。

これまで基地の高い評価を築き確固なものとした前司令官のデラマター大佐は、指揮権を移譲し、空軍を退役する。その後は米民間人として、アーカンソー州リトルロック空軍基地においてC-130Jスーパーハーキュリーズのシミュレーター指導官の任務に就く予定だ。

前司令官のデラマター大佐は「皆と共に働けたことを心から光栄に思う。司令官として指示したこと、またそれ以上に皆が全て応えてくれた。日本の人々は、我々を家族のように温かく迎えてくれ、日本を“ふるさと”と思えるようにしてくれた。アメリカ軍の空兵が航空自衛隊の仲間と連携を組み、日本を防衛し国家を守ることができるのは、皆さんの協力のおかげによるもの」と述べた。